

平成29年度 事業報告書

コース	<input checked="" type="checkbox"/> 自主事業コース <input type="checkbox"/> 協働市民提案コース <input type="checkbox"/> 協働行政提案コース
事業名	聴覚障害者のための和太鼓ワークショップ事業
団体名	備中邦楽の里フェスタ実行委員会
担当課	—

1 事業の成果

平成29年度事業計画書(様式第2号)に記載した「5(2)事業の実施に期待する効果」に対応する成果を記入してください。(※実施した事業の詳細は「4 事業実施記録」に記入してください。)

(主たる効果)

・参加者の聴覚障害者において、やる気やいきがい、社会参加のきっかけを高めることが期待できた。アンケートの回答で、参加者からは以下の前向きな声を得ることができた。

『ストレス解消できた』

『見るつもりでしたが、体験したら本当に良かった。音から響いて感動ある。』

『楽しかったです。説明もわかりやすく、やりやすかったです。』

『楽しそうな子供の顔が見れた。』

・講師は、多様な参加者に対する経験を積むことができ、社会貢献の機会ともなった。講師からは、『今回の企画で、障害者の音楽体験について、大きな可能性を感じることができた。より広い対象者に広げていくことができるのではないか』とのヒアリングでのコメントを得た。また、今回の企画が縁となり、岡山豊学校への訪問・和太鼓の実演、指導の機会となった。

・初年度は、多様な子ども向けなどのワークショップ経験豊富なアーティストを招聘し、プログラムの検討を行った。検討の結果、通常の子どもの向け和太鼓ワークショップで実施されている「和太鼓の説明」「講師の実演を見る・聞く」「参加者の体験」に加えて、「講師の実演する太鼓を触る」がプログラムに追加されたことが、アンケートにも『小さい子にも分かりやすく、子どもから大人まで楽しめて良かったです。叩いている太鼓を触らせてもらえるとは思っていなかったのでびっくりしました。』との声を得ることができ、効果を実証できた。

・次年度以降は、地域のアーティスト等にも、汎用可能な聴覚障害者のための和太鼓体験プログラムのノウハウ移転を行い、実施できることを目指す予定である(次年度以降の展開により検証)。(潜在的な可能性)

・ボランティア参加者やイベント聴衆に、文化と福祉の多様な価値観を伝える機会となった。特に、聴覚障害者福祉協会から派遣された、手話通訳者からは、「引き続き、この企画を継続してほしい」との高い評価を得た。

・音楽や和楽器の持つ可能性を広げた。

2 事業の自己評価

事業の成果を自己評価すると何点になりますか。計画通りであれば100点とします。なお、想定を大きく上回る成果を得ている場合は100点を超える点数を記入してください。

120 点

3 事業の課題

事業を実施する中で見えてきた課題を記入してください。

・情報発信の重要性

聴覚障害者への情報発信は、聾学校や支援団体、あるいは行政など、情報が届きやすい経路があることが、改めて見えてきた。また、当事者同士の口コミについても、情報の広がりやスピードの観点から、重要であることが見えてきた。

・聴覚障害者とのコミュニケーション

聴覚障害者は、日常的にFAXを使用していることなどが、新しい気づきであった。

・移動に対するハンディキャップ

聴覚障害者には、周りの人の力を借りないと、移動が難しいことに、改めて気づかされた。今回は駅から徒歩圏内と近い会場で良かったが、車でしかたどり着けない会場には、移動の制限があることが、見えてきた。

4 事業実施記録

5 実施した事業の詳細を記入してください。

実施内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の人数
第1回 ワークショップ開催 ・和太鼓の説明 ・講師の実演（見る、聞く、触る） ・簡単なリズムの体験 ・叩いて遊ぼう	8月26日（土） 10時～11時	地藏院	9名 講師1 通訳者2 STAFF4 ボランティア2	11名
第2回 ワークショップ開催 ・和太鼓の説明 ・講師の実演（見る、聞く、触る） ・簡単なリズムの体験 ・グループ分けでの簡単なリズム体験 ・叩いて遊ぼう	9月10日（日） 10時～11時	地藏院	9名 講師1 通訳者2 STAFF4 ボランティア2	20名
第3回 ワークショップ開催 ・和太鼓の説明 ・講師の実演（見る、聞く、触る） ・簡単なリズムの体験 ・グループ分けでの合わせての体験 ・叩いて遊ぼう	9月16日（土） 10時～11時	地藏院	9名 講師1 通訳者2 STAFF4 ボランティア2	13名
振り返り検討会の開催 ・今回事業の振り返り ・今後への期待	11月9日（木） 14時～16時	岡山県聴覚障害者福祉協会	3名 講師1 通訳者1 事務局1	3名 当事者1 支援団体 関係者2

収支精算書

(収入の部)

(単位：円)

項 目	予算額	収入済額	主な収入の内訳
受益者負担 (参加費, 受講料など)	49,000	22,000	参加費 500 円 * 44 名
会費からの繰入	0	0,400 16,200	
その 他	30,000	30,000	協賛金
市補助金	300,000	300,000	
合 計	379,000	301,400 368,200	

(支出の部)

(単位：円)

区分	項 目	予算額	支出済額	主な支出の内訳	
経費① (対象経費)	人件費(団体会員に支払うもの)	0	0		
	交通費(団体会員に支払うもの)	0	0		
	人件費(団体外部に支払うアルバイト代等)	14,000	20,900 13,600		
	謝 金 (講師等に支払うもの)	90,000	70,000	別紙講師関係経費参照	
	旅費交通費 (講師等に支払うもの)	125,000	192,800	別紙講師関係経費参照	
	消耗品費	10,000	0		
	印刷製本費	25,000	0		
	通信運搬費	36,000	85,000	楽器運搬費 45,000 / 保管, 会場 和太鼓送料 40,000 / 東京間	
	保険料	9,000	0		
	使用料・賃借料	30,000	0		
	外注費・委託費	0	0		
	小計	339,000	361,400 368,200		
経費② (対象外経費)	食糧費	0	0		
	人件費	0	0		
	その他	40,000	0		
	小計	40,000	0		
合 計	379,000	361,400 368,200			

(記入上の注意)

※ 予算額は申込み時に提出した様式第 3 号の内容を記入してください。